

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 機能

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

第2章 ソフトウェア

ソフトウェアのインストールについて説明しています。

第3章 トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
第1章 機能	
1 ディスプレイ関連	10
解像度と色数について	10
マルチディスプレイ機能	11
マルチディスプレイ機能を設定する	12
2 通信	21
内蔵 LAN について	21
3 ドライブ関連	22
ドライブ構成	22
DMA の設定	22
仮想メモリを設定する	24
ファイルシステムについて	26
4 省電力	28
スタンバイと休止状態	28
省電力の設定	31
スタンバイ／休止状態にする	32
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	33
ACPI のスタンバイモードを設定する	34
5 その他	35
Power Management for Windows	35
第2章 ソフトウェア	
1 ソフトウェア一覧	38
各ソフトウェアの紹介	39
アンインストール方法	46
2 ドライバ	47
第3章 トラブルシューティング	
1 トラブルに備えて	50
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	50
修正プログラムの適用について	51
データのバックアップ	51
コンピュータウイルス対策	51
ドキュメントの確認	52

2 トラブル発生時の基本操作	53
接続や電源スイッチを確認する	53
以前の状態に戻す	53
Safe モード	54
ハードウェアの競合を確認する	55
バックアップを行う	56
メッセージなどが表示されたらメモしておく	56
3 起動・終了時のトラブル	57
4 OS・アプリケーション関連のトラブル	59
5 ハードウェア関連のトラブル	61
BIOS	61
メモリ	61
内蔵 LAN	61
ハードディスク	64
CD-ROM	65
フロッピーディスク	66
SCSI カード	66
ディスプレイ	67
サウンド	69
キーボード	70
マウス	70
プリンタ	71
その他	71
6 リカバリ	72
リカバリを実行する前に	72
リカバリ後も状態が改善されない場合は	72
7 それでも解決できないときは	73
ソフトウェアのお問い合わせ一覧	73
索引	75

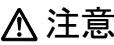
Memo

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関する記載をしています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ]:\\$setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS 設定の表記

本文中の BIOS の設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン) の後に記述する場合があります。

例： 「Advanced BIOS Features」の「Silent Boot」の項目を「Enabled」に設定します。
↓
「Advanced BIOS Features」-「Silent Boot」: Enabled

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2003 年 6 月現在のものです。変更されている場合は、弊社担当営業員または担当保守員へお問い合わせください (→『取扱説明書』)。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載されている場合があります。

そのため、本製品がカスタムメイドオプションを取り付けている場合、本文中の説明と一部記載が異なる場合があります。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows ^注
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP	
Microsoft® Windows® 2000 日本語版 Service Pack		
Norton AntiVirus TM 2003	AntiVirus	
VERITAS RecordNow DX 4.6	RecordNow	
Adobe® Acrobat® Reader® 5.1	Acrobat Reader	
Matrox Millennium G450	Millennium G450	
Matrox Millenium G450-PCI	Millenium G450-PCI	
CELSIUS Fire GL 8800	Fire GL 8800	
CELSIUS Quadro® 4 900 XGL	Quadro4 900XGL	

注：Windows XP/2000のように併記する場合があります。

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。

機種名	本文中の表記
CELSIUS 330	本ワークステーション ワークステーション本体

Microsoft、Windows、MS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Matrox、Matrox Millennium は、Matrox Graphics Inc. の商標です。
NVIDIA、NVIDIA Quadro は、NVIDIA Corporation の登録商標です。
ATI、FIRE GL は、ATI Technologies Inc. の登録商標または商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第1章

機能

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

1	ディスプレイ関連	10
2	通信	21
3	ドライブ関連	22
4	省電力	28
5	その他	35

1 ディスプレイ関連

ディスプレイの設定について説明しています。

解像度と色数について

POINT

- ▶ 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を大きくすると、設定できる色数は少くなります。
- ▶ 解像度、色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- ▶ 画面の設定は、すべてのアプリケーションを終了させてから行うようにしてください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示位置が左右にずれる場合があります。この場合は、ディスプレイの設定機能を使用して正しい位置に表示されるよう調整してください。詳しくは、ディスプレイの「取扱説明書」をご覧ください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。
表示可能な解像度以外の解像度ではお使いにならないでください。表示可能な解像度はディスプレイの「取扱説明書」でご確認ください。
- ▶ アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。
なお、FireGL 8800 の場合、256 色の発色数は指定できません。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

設定項目が表示されます。

3 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。

「互換性の警告」 ウィンドウまたは、「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

4 「新しいデスクトップ設定を適用します。」と表示されたら「OK」をクリックします。

5 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15 秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、手順 3 に戻り再度解像度などを選択します。

設定が有効になります。

■ 補足情報

「画面のプロパティ」ウインドウ内には各ディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプを参照してください。通常は初期設定値でご使用ください。

マルチディスプレイ機能

本ワークステーションには、搭載しているグラフィックスカード1枚で、2台のディスプレイを接続／表示できる「マルチディスプレイ機能」があります。

また、Millennium G450 搭載モデルにてカスタムメイドオプションで Millennium G450-PCI を選択された場合、最大4台のディスプレイを接続／表示できます。

POINT

- ▶ 搭載しているグラフィックスカードのみでマルチディスプレイ機能を使うことができるので、本体にグラフィックスカードを増設する必要はありません。
- ▶ FireGL 8800 搭載モデルおよびQuadro4 900 XGL 搭載モデルではカスタムメイドオプションの Millennium G450-PCI を選択することはできません。

■ 留意事項

- 本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を必ず入れてください。
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、本体の電源を入れる前に、デジタルディスプレイの電源が入っていることを必ず確認してください。本体の電源を入れたあとでデジタルディスプレイの電源を入れた場合、画面が表示されません。この場合、本体の電源を切り、その後に電源を入れなおしてください。
 - マルチディスプレイ機能を使用する場合、必ずWindowsのセットアップを行ってから、もう一方のディスプレイケーブル(DVI-VGA 変換アダプタ経由の接続含む)を接続してください。
 - マルチディスプレイ機能には、次の2つの機能があります。
 - ・ クローン機能
プライマリディスプレイに表示されている画面をセカンダリディスプレイにも表示する機能
 - ・ マルチモニタ機能
デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台(カスタムメイドオプションで Millennium G450-PCI を選択された場合は最大4台)のディスプレイを使って表示する機能
- 各グラフィックスカードの対応は次のとおりです。

	クローン機能		マルチモニタ機能	
	Windows XP	Windows 2000	Windows XP	Windows 2000
Millennium G450	○	○	○	○
Fire GL 8800	○	○	○	○
Quadro4 900 XGL	○	○	○	○

- クローン機能は、プライマリディスプレイの画面の設定がセカンダリディスプレイにも適用されます。
表示可能な解像度が異なるディスプレイ 2 台でマルチディスプレイ機能を使う場合、表示は解像度が低いディスプレイに依存します。解像度が低いディスプレイにあわせて画面を設定してください。
- お使いになる前に、ディスプレイの取扱説明書などを参照し設定してください。
- DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合は、「DVI-VGA 変換アダプタ」が必要です。
- Millennium G450 でアナログディスプレイを 2 台接続する場合は、添付の「DVI-VGA 変換ケーブル」をお使いください。
- マルチディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。
- 接続されていないディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を有効にしないでください。正常に動作しない場合があります。
- ディスプレイを取り外した場合、取り外したディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を無効してください。
- ピンボールなどのゲームや Windows Media Player などのマルチディスプレイ機能での動作を保証していないアプリケーションを全画面表示した場合、アプリケーションを表示している画面以外のデスクトップの表示が正常に行われない場合があります。
- 動画再生ソフトによってはプライマリディスプレイの画面以外では動画の再生を行えない場合があります。その場合は、動画再生ソフトを最新版にアップデートしてください。

■ 用意するもの

- DVI-VGA 変換ケーブル (Millennium G450 の場合)
- DVI-VGA 変換アダプタ (DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合)
- ディスプレイ

マルチディスプレイ機能を設定する

POINT

- ▶ 「XXXXX」は接続されたディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ 各項目の詳細は、調べたい項目の上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧下さい。

■ Millennium G450 の場合

POINT

- ▶ 各ディスプレイの解像度／色数／垂直同期は、選択範囲内で個別に設定可能です。

□ クローン機能の場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と Matrox Millennium G450 DVI - Japanese のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「DualHead」タブをクリックし、「機能」をダブルクリックします。
DualHead 機能の一覧が表示されます。
- 4** 「DualHead クローン」をクリックし、「設定の変更」をクリックします。
「DualHead クローン」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「ホットキー」をクリックします。
「Matrox PowerDesk のホットキー」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「スキームと機能」の「DualHead クローン」をクリックします。
- 7** 「キーボードショートカット」内をポイントし、クローン機能を使用するためのキー（例：【Ctrl】+【F10】キー）を押し、「保存」をクリックします。
- 8** 「閉じる」をクリックします。
- 9** 「OK」をクリックします。
- 10** 「OK」をクリックします。
- 11** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」（→ P.10）をご覧になり、設定してください。

「キーボードショートカット」で入力したキーを押すことによって、クローン機能を使用することができます。
入力したキーをもう一度押すと、クローン機能を無効にすることができます。

□ マルチモニタ機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と Matrox Millennium G450 DVI - Japanese のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「DualHead」タブをクリックし、「機能」をダブルクリックします。
DualHead 機能の一覧が表示されます。
- 4** 「DualHead 複数モニタ」をクリックし、「設定の変更」をクリックします。
「DualHead 複数モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「DualHead 複数モニタを使用」をチェックします。

- 6 「それぞれのモニタに別々の解像度のカラーパレットを使用」をチェックし、「OK」をクリックします。
再起動メッセージが表示されます。
- 7 「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。
- 8 再起動後、デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 9 「設定」タブをクリックします。
- 10 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。
- 11 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.10)をご覧になり、設定してください。

■ Millennium G450、Millennium G450-PCI の場合

POINT

- ▶ ディスプレイを3台または4台接続する場合は、デジタルディスプレイは接続できません。4台接続する場合はDVI-Iコネクタに別売のDVD-VGA変換アダプタを接続してからアナログディスプレイを接続します。
- ▶ 次の解像度、色数、リフレッシュレート以外ではマルチディスプレイ機能を使用しないでください。正常に動作しない場合があります。

解像度	800×600／1024×768／1280×1024／1600×1200
色数	High Color(16bit)／True Color(32bit)
リフレッシュレート	60Hz／75Hz／85Hz

1600×1200でTrue Color(32bit)でお使いの場合、リフレッシュレートを85Hzに設定することはできません。

- ▶ コマンドプロンプトを全画面表示した場合、識別番号「1」と「3」のディスプレイにのみ画面が表示されます。他のディスプレイには画面は表示されません。
- ▶ ピンボールなどのゲームやWindows Media Playerなどのアプリケーションでは、識別番号「2」と「4」のディスプレイでは全画面表示を行うことができません。
- ▶ Windows Media Playerを全画面表示した場合、識別番号「1」のディスプレイに画面が表示されます。

□ クローン機能の場合

POINT

- ▶ クローン機能は、同じグラフィックスカードに接続される2台のディスプレイの間(1台目と3台目または2台目と4台目)でのみ使用できます。3台または4台でのクローン機能は使用できません。
- ▶ ディスプレイは次の順番で接続してください。
ディスプレイを取り外した場合、認識番号がずれないようにディスプレイの接続をし直してください。

・3台接続する場合

ディスプレイ	コネクタ	「設定」タブでの識別番号
1台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「1」	1
2台目	Millennium G450-PCI アナログ RGB コネクタ	2
3台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「2」	1

・4台接続する場合

ディスプレイ	コネクタ	「設定」タブでの識別番号
1台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「1」	1
2台目	Millennium G450-PCI アナログ RGB コネクタ	2
3台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「2」	1
4台目	Millennium G450-PCI DVI-I コネクタ (DVI-VGA 変換コネクタ経由)	2

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「ディスプレイ」で「Matrox Millennium G450 DualHead DVI - Japanese 上の XXXXX」を選択し、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。
- 4 「ディスプレイ」で「Matrox Millennium G450 DVI - Japanese 上の XXXXX」を選択し、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と Matrox Millennium G450 DVI - Japanese のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 5 「DualHead」タブをクリックし、「機能」をダブルクリックします。
DualHead 機能の一覧が表示されます。
- 6 「DualHead クローン」をクリックし、「設定の変更」をクリックします。
「DualHead クローン」 ウィンドウが表示されます。
- 7 「ホットキー」をクリックします。
「Matrox PowerDesk のホットキー」 ウィンドウが表示されます。
- 8 「スキームと機能」の「DualHead クローン」をクリックします。

9 「キーボードショートカット」内をポイントし、クローン機能を使用するためのキー（例：【Ctrl】 + 【F10】キー）を押し、「保存」をクリックします。

10 「閉じる」をクリックします。

11 「OK」をクリックします。

12 「OK」をクリックします。

13 解像度と色数を設定します。

「解像度と色数について」（→ P.10）をご覧になり、設定してください。

1台目と3台目のディスプレイでクローン機能を使用する場合、1台目のディスプレイにマウスカーソルをセットし、「キーボードショートカット」で入力したキーを押すことによって、クローン機能を使用することができます。

2台目と4台目のディスプレイでクローン機能を使用する場合、2台目のディスプレイにマウスカーソルを移動し、「キーボードショートカット」で入力したキーを押すことによってクローン機能を使用することができます。

入力したキーをもう一度押すとクローン機能を無効にすることができます。

□マルチモニタ機能の場合

POINT

- ▶ ディスプレイは次の順番で接続してください。
ディスプレイを取り外した場合、認識番号がずれないようにディスプレイの接続をし直してください。

- ・3台接続する場合

ディスプレイ	コネクタ	「設定」タブでの識別番号
1台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「1」	1
2台目	Millennium G450-PCI アナログ RGB コネクタ	2
3台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「2」	3

- ・4台接続する場合

ディスプレイ	コネクタ	「設定」タブでの識別番号
1台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「1」	1
2台目	Millennium G450-PCI アナログ RGB コネクタ	2
3台目	Millennium G450 DVI-VGA 変換ケーブルのアナログ RGB コネクタ「2」	3
4台目	Millennium G450-PCI DVI-I コネクタ (DVI-VGA 変換コネクタ経由)	4

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「ディスプレイ」で「Matrox Millennium G450 DVI - Japanese 上の XXXXX」を選択し、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と Matrox Millennium G450 DVI - Japanese のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「DualHead」タブをクリックし、「機能」をダブルクリックします。
DualHead 機能の一覧が表示されます。
- 5** 「DualHead 複数モニタ」をクリックし、「設定の変更」をクリックします。
「DualHead 複数モニタ設定」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「DualHead 複数モニタを使用」をチェックします。
- 7** 「それぞれのモニタに別々の解像度のカラーパレットを使用」をチェックし、「OK」をクリックします。
再起動メッセージが表示されます。
- 8** 「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。
- 9** 再起動後、デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 10** 「設定」タブをクリックします。
- 11** 「ディスプレイ」で「Matrox Millennium G450 DualHead DVI - Japanese 上の XXXXX」を選択し、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。
- 12** 「詳細設定」または、「詳細」をクリックします。
「XXXXX と Matrox Millennium G450 DualHead DVI - Japanese のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 13** 「DualHead」タブをクリックし、「機能」をダブルクリックします。
DualHead 機能の一覧が表示されます。
- 14** 「DualHead 複数モニタ」をクリックし、「設定の変更」をクリックします。
「DualHead 複数モニタ設定」ウィンドウが表示されます。
- 15** 「DualHead 複数モニタを使用」をチェックします。

16 「それぞれのモニタに別々の解像度のカラーパレットを使用」をチェックし、「OK」をクリックします。
再起動メッセージが表示されます。

17 「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動します。

18 再起動後、解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.10)をご覧になり、設定してください。

■ Fire GL 8800 の場合

POINT

- ▶ 各ディスプレイの設定は、同一解像度／色数／垂直同期となります。
- ▶ ディスプレイを2台接続した場合、初期設定値はクローン機能が設定されています。

□ クローン機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と ATI Fire GL 8800 Video Accelerator のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「DualScreen」タブをクリックします。

POINT

- ▶ ディスプレイを2台接続しないと、「DualScreen」タブは表示されません。

- 4** 「デスクトップの設定」で「クローン モード」を選択し、「OK」をクリックします。
- 5** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.10)をご覧になり、設定してください。

□ マルチモニタ機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と ATI Fire GL 8800 Video Accelerator のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「DualScreen」タブをクリックします。

POINT

- ▶ ディスプレイを2台接続しないと、「DualScreen」タブは表示されません。

- 4** 「デスクトップの設定」でお使いになる画面の設定を選択します。
 「拡張デスクトップ（水平）」：2つの画面を横置きで1枚の画面として使用します。
 「拡張デスクトップ（垂直）」：2つの画面を縦置きで1枚の画面として使用します。

- 5** 「拡張デスクトップ（水平）」または「拡張デスクトップ（垂直）」を選択し、「OK」をクリックします。
- 6** 解像度と色数を設定します。
 「解像度と色数について」（→ P.10）をご覧になり、設定してください。

■ Quadro4 900 XGL の場合

POINT

- 各ディスプレイの設定は、同一解像度／色数／垂直同期となります。
- 2台のディスプレイを接続した場合、最初の起動時に「NVIDIA nView ウィザード」が表示される場合があります。この際に、画面の指示に従ってマルチディスプレイの設定を行うことができます。

なお、すぐに設定を行わない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

□ クローン機能の場合

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
 「XXXXXX と NVIDIA Quadro4 900XGL のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「nView」タブをクリックします。
- 4** 「nView モード」で「クローン」を選択し、「適用」をクリックします。
 「ディスプレイ設定」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「OK」をクリックします。
 「ディスプレイ設定の確認」ウィンドウが表示されます。
- 6** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 7** 解像度と色数を設定します。
 「解像度と色数について」（→ P.10）をご覧になり、設定してください。

□ マルチモニタ機能の場合（水平スパン／垂直スパン機能の場合）

POINT

- Windows XP の場合、「設定」タブでマルチモニタ機能を設定しないでください。必ず、次の手順に従って、「nView」タブで設定してください。

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」をクリックします。
「XXXXX と NVIDIA Quadro4 900XGL のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「nView」タブをクリックします。
- 4** 「nView モード」でお使いになる画面設定を選択します。
「水平スパン」：2つの画面を横置きで1枚の画面として使用します。
「垂直スパン」：2つの画面を縦置きで1枚の画面として使用します。
- 5** 「水平スパン」または「垂直スパン」を選択し、「適用」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合、「OK」をクリックします。
「ディスプレイ設定」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「OK」をクリックします。
「ディスプレイ設定の確認」ウィンドウが表示されます。
- 7** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 8** 解像度と色数を設定します。
「解像度と色数について」(→ P.10) をご覧になり、設定してください。

2 通信

LAN など、通信関連について説明しています。

内蔵 LAN について

Windows セットアップ後に、お使いのネットワーク環境に合わせて、設定を行ってください。

■ LAN を接続する

LAN デバイスが内蔵されています。100BASE-TX による IEEE802.3u に準拠した高速 LAN システムへ接続することができます。また、従来の 10BASE-T による LAN システムへ接続することも可能です。

⚠ 警告



- 近くで雷が起きたときは、ワークステーション本体の電源を切り、AC アダプタや LAN ケーブルを取り外してください。
そのまま使用すると、雷によっては本ワークステーションを破壊し、火災の原因となります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
故障の原因となることがあります。

1 ワークステーション本体の電源を切ります (→ 『取扱説明書』)。

2 ワークステーション本体の LAN コネクタ (→ 「各部名称」 - 「各部の名称と働き」) とネットワークを、LAN ケーブルで接続します。

3 ドライブ関連

ドライブ関連について説明しています。

ドライブ構成

FATをNTFSに変換する方法については、「ファイルシステムについて」(→P.26)をご覧ください。

■ Windows XP の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 16GB ^{注1}	NTFS
D	〔総容量〕 - 〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM (CD-R/RW ^{注2}) ドライブ	

注1: 容量は、1GB=1000³byte 換算値です。

注2: カスタムメイドオプションの場合は CD-R/RW ドライブ

■ Windows 2000 の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 16GB ^{注1}	FAT32
D	〔総容量〕 - 〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM (CD-R/RW ^{注2}) ドライブ	

注1: 容量は、1GB=1000³byte 換算値です。

注2: カスタムメイドオプションの場合は CD-R/RW ドライブ

DMA の設定

■ DMA 設定対応表

デバイス	プライマリ		セカンダリ	
	0	1	0	1
CELSIUS 330	●	—	●	—

● : ご購入時 DMA 設定

— : 増設不可

■ 留意事項

DMA 転送をサポートしていないドライブを接続して DMA を設定した場合、正常な動作が保証されません。

■ DMA の設定方法

1 次の操作を行います。

- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intel Ultra ATA Storage Driver」→「Companion」の順にクリックします。
- 「Intel Ultra ATA Companion」が起動されます。

2 「デバイスパラメータ」タブの左側「デバイス」内の「プライマリチャネル」か「セカンダリチャネル」の下にある「デバイス名」をクリックします。

「デバイス名」は装置によって異なります。

3 右側「パラメータ」にある「転送モードの限界値」をダブルクリックします。

「値の編集」ウィンドウが表示されます。「パラメータデータ」の値を次の表に従って設定してください。

POINT

- ▶ 転送モードの設定は、本ドライバをインストールしたあと、「Intel Ultra ATA Companion」をお使いください。「システムのプロパティ」での転送モード設定は無効になります。

プライマリ IDE	セカンダリ IDE
ハードディスク ドライブ：無限	CD-ROM ドライブ：UDMA-2
	CD-R/RW ドライブ：UDMA-2

4 「Intel Ultra ATA Companion」ウィンドウの「ファイル」から「今すぐ変更を確定する」をクリックします。

「システムを今すぐ再起動しますか？」とメッセージが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

本ワークステーションが再起動されます。

POINT

- ▶ 本ワークステーションにてセカンダリ IDE に DMA を設定している場合(出荷時設定:UDMA-2)、「イベントビューア」に以下のエラーがまれに記録されることがあります。

- ・イベント ID : 11
- ・ソース : Cdrom
- ・種類 : エラー

・説明 : ドライバは ¥Device¥CdRom0 でコントローラエラーを検出しました。

この場合、次の方法で回避することができます。

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intel Ultra ATA Storage Driver」→「Companion」の順にクリックします。
2. 「デバイスパラメータ」タブの左側にある「デバイス」内の「セカンダリチャネル」下の「マスター」に表示されているデバイス名 (CD-ROM ドライブ) をダブルクリックします。
3. 「デバイスパラメータ」タブの右側にある「パラメータ」内の「転送モードの限界値」をクリックします。
4. 「値の編集」ウィンドウが表示されます。
5. 「パラメータデータ」の値を「PIO-4」に変更し、「OK」をクリックします。
6. 「ファイル」→「今すぐ変更を確定する」の順にクリックします。

再起動メッセージが表示されます。

6. 「はい」をクリックします
本ワークステーションが自動的に再起動します。
以上で設定は完了です。

仮想メモリを設定する

ここでは、仮想メモリ（ページングファイル）の設定方法を説明します。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定を行ってください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合は、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の容量が必要です。

■ 設定方法

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
FAT32	4GB	Windows 2000 モデル出荷時ブートパーティション
NTFS	パーティションサイズと同じ	Windows XP モデル出荷時ブートパーティション

□ Windows XP の場合

仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍

最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをクリックします。
- 3 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。
- 5 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。

- 6 ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 7 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 8 「OK」をクリックします。
- 9 本ワークステーションを再起動します。

□ Windows 2000 の場合

仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍

最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「詳細」タブをクリックし、「パフォーマンスオプション」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」 ウィンドウが表示されます。
- 4 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」 ウィンドウが表示されます。
- 5 ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 6 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 本ワークステーションを再起動します。

ファイルシステムについて

■ ファイルシステムの概要

ハードディスク上のシステムドライブは次のファイルシステムでフォーマットされています。

Windows XP : NTFS

Windows 2000 : FAT32

□ FAT と NTFS

FAT32 から NTFS に変換することで、セキュリティや信頼性を強化できます。

POINT

- ▶ NTFS に変換した場合、Windows XP/2000 以外の OS からは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。
- ▶ Windows XP では、システムドライブ以外を FAT32 に設定することができますが、FAT32 にした場合、32GB 以上はサポートされません。

	Windows XP/2000
Windows XP/2000 の NTFS	○
FAT32	○

- ▶ NTFS に変換した場合、すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。
- ▶ FAT32 をサポートしていない OS (MS-DOS など) からは FAT32 でフォーマットしたハードディスクを認識できません。このため、MS-DOS で作成された起動フロッピーからインストールを行うアプリケーションの場合、インストールに失敗するなどの問題が発生することがあります。

■ ファイルシステムの変換方法

□ 変換方法

ファイルシステムを FAT から NTFS に変換する方法を説明します。

一度ファイルシステムを NTFS に変換すると、FAT に戻すことはできません。

操作の前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

● Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。

2 次のように入力します。

`convert n: /fs:ntfs /v`

(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)

3 【Enter】キーを押します。

- ・ブートパーティションを変換する場合

「次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N) ?」と表示されるので【Y】キーを押し、【Enter】キーを押した後、Windows を再起動します。Windows の再起動後にドライブが変換され、再度本ワークステーションが再起動します。

- ・拡張パーティションを変換する場合

ドライブが変換されます。

POINT

- ▶ ドライブにボリュームラベルが設定されている場合は、ボリュームラベルの入力を求められます。ボリュームラベルを入力して【Enter】キーを押してください。

4 省電力

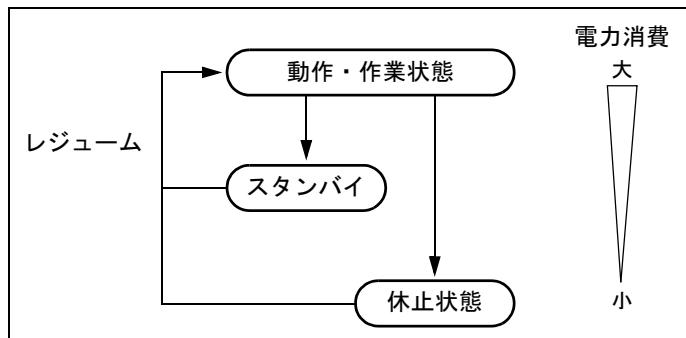
省電力について説明しています。

ご購入時は ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに設定されています。

ここでは、ACPI モードに関する留意事項と、スタンバイモードの変更方法 (→ P.34) を説明します。

スタンバイと休止状態

「スタンバイ」または「休止状態」を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



● スタンバイ

実行中のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してワークステーションの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプまたはスタンバイランプがオレンジ色に点灯します (→ 「各部名称」 - 「ワークステーション本体前面」)。「休止状態」よりも短い時間で、中断や回復 (レジューム) を行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

● 休止状態

実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。そのため、「スタンバイ」よりも中断／回復 (レジューム) にかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」 ウィンドウで設定する必要があります。

■ 留意事項

- ワークステーションをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源スイッチなどで本ワークステーションをスタンバイにしても、まれにすぐにレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。

- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- スタンバイ時／休止状態移行時／レジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイに移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない／スタンバイまたは休止状態からレジュームしない／レジューム後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
 - ・OS の起動処理中または終了処理中
 - ・ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
 - ・モデムやネットワークの通信中
 - ・オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
 - ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
 - ・ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・マウスの操作中
 - ・ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、「BIOS」－「メニュー詳細」をご覧ください。
- 本ワークステーションでは高度な省電力モード（ACPI S3）をサポートすることにより、ご購入時の状態では、スタンバイ時の消費電力を数ワットにすることを実現しています。
事前に、接続する周辺機器が ACPI に対応しているか、また、ACPI S3 / ACPI S1 モード対応かを周辺機器のメーカーに確認してください。従来の周辺機器（プリンタ、USB 機器等）、または ACPI モードに対応していない周辺機器を接続すると、次の状態になる場合があります。
 - ・周辺機器が使用できない
 - ・スタンバイ状態からレジュームできない
 - ・本体がスタンバイ状態から復帰した後に、正常に動作しない
 上記の状態になった場合は、「ACPI のスタンバイモードを設定する」（→ P.34）をご覧になり、スタンバイモードを高度（ACPI S3）から標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。また、内蔵オプションについても、ACPI S3 モードに対応していない場合があります。同様に、スタンバイモードを標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。
なお、最新ドライバに変更することで ACPI に対応できる周辺機器もあります。詳細は周辺機器のメーカーに確認してください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- CD-ROM 読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。

- コマンドプロンプトを全画面表示で使用しているときにスタンバイに移行すると、スタンバイからレジュームしたときにコマンドプロンプトの全画面表示が解除されていることがあります。
この場合、タスクバーの「コマンドプロンプト」部分をクリックすると、全画面表示に戻ります。
また、Windows 2000 では【Alt】+【Enter】キーを押すと、コマンドプロンプトの全画面表示が解除され、画面の乱れがなくなります。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム (Wake up on LAN 機能) を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本ワークステーションがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。
 1. 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示します (→ P.31)。
 2. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。
- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スタンバイ時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、ワークステーション本体がレジュームすることがあります。
この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。
- プリンタなどの周辺装置を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺装置の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- スタンバイまたは休止状態へ移行させときは、手動（電源スイッチを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.32)、などの操作）ではなく次のように設定することをお勧めします。この設定を行うと、ファイルアクセス中や通信中などに省電力状態になってしまふことを回避できます。
 - ・「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでの時間（例えば「30 分後」）を設定します。
- スタンバイへ移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイへ移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイへ移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合（スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。
 - ・TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ネットワーク環境で通信中に、手動（電源スイッチを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する (→ P.32)、などの操作）によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合

- ・ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（電源スイッチを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→P.32）、などの操作）によりスタンバイへ移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。

XXXXXX(YYYYYY)

このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか?】

- 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」ウィンドウにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。
- 省電力設定は、ユーザー別に設定できます。このため、管理者権限を持ったユーザーでログオンした場合と他のユーザーでログオンした場合で設定が異なります。
必要に応じ、「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」で設定してください。
- OpenGLを使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイおよびシステム休止状態への移行はできません。

省電力の設定

■「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の表示

本ワークステーションの電源を管理することができます。

1 次の操作を行います。

●Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

●Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 Windows XP では、「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。

3 「電源オプション」または「電源の管理」をクリックまたはダブルクリックします。

「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」が表示されます。

■ 設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

□「電源設定」タブ

本ワークステーションの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。

スタンバイするまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。

「休止状態」タブで休止状態を選択した場合、休止状態までの時間は「システム休止状態」で設定してください。

□「詳細設定」または「詳細」タブ

電源スイッチを押したときの、ワークステーション本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています）。

次のように設定できます。

- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源スイッチを押したときの状態を設定できます。
- Windows XP：「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」
Windows 2000：「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」
：スタンバイからリジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる設定を行います。

□「休止状態」タブ

本ワークステーションを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」または「休止状態をサポートする」をチェックすると、「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイ／休止状態にする

■ 終了ウィンドウを使う

終了ウィンドウを使用してスタンバイ／休止状態にする場合は、次のように操作してください。

POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」での設定が必要な場合があります（→ P.31）。

- 1 「スタート」ボタンから次のメニューをクリックします。

Windows XP：「終了オプション」

Windows 2000：「シャットダウン」

- 2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。Windows 2000 の場合は「OK」をクリックします。

しばらくすると各省電力状態に移行します。

POINT

- ▶ Windows XP の休止状態について
Windows XP の終了ウィンドウには、「休止状態」は表示されません。【Shift】キーを押すと、「スタンバイ」の項目が「休止状態」に変わります。
休止状態にする場合は、【Shift】キーを押しながら、「休止状態」を選択します。
- ▶ カスタムメイドオプションで選択したグラフィックスカードによっては、休止状態に移行中であることを示す画面が表示されない場合があります。

スタンバイまたは休止状態からの復帰

■ スタンバイおよび休止状態からの復帰条件

ACPI モードの標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイおよび休止状態から、次の表で○になっている復帰要因で通常の状態に復帰することができます。

復帰要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	ACPI モード高度 (ACPI S3)	休止状態 (ACPI S4)
電源スイッチ ^{注1}	○	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス ^{注2}	○ ^{注7}	○	×
USB キーボード、USB マウス	×	○ ^{注8}	×
時刻指定 ^{注2 注3}	○	○	○
LAN ^{注2 注4}	○	○	○
モデム着信 (Ring Indicator 信号) ^{注2 注5}	○	○	○
PCI 拡張カード (PME# 信号) ^{注2 注6}	○	○	○

注 1 : 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」 - 「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」または「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイから復帰します。

注 2 : 標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイから復帰したとき、復帰は行われますが画面が表示されません。キーボードかマウスからの入力があると、画面が表示されます。

注 3 : 「タスク」を使用した場合

注 4 : 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」
- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

また、BIOS 設定で「Power Management Setup」 - 「Wake Up by PCI Card」を Enabled (出荷時設定 : Disabled) にする必要があります。

注 5 : 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

注 6 : PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.2 規格に準拠) を搭載した場合

注 7 : 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティで「電源の管理」タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになります」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」

注 8 : 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになります」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」

また、BIOS 設定で「Power Management Setup」 - 「USB KB/Mouse Wake-up From S3」を Enabled (出荷時設定 : Enabled) にする必要があります。

ACPI のスタンバイモードを設定する

■ 概要

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 高度 (ACPI S3) …メモリ以外の装置の動作を停止します。標準 (ACPI S1) と比較し、省電力に優れる一方でレジュームには時間がかかります。
- 標準 (ACPI S1) …CPU の動作を停止します。

POINT

- ▶ 増設する周辺機器は高度 (ACPI S3) に対応している必要があります。
対応していない周辺機器を接続する場合は、標準 (ACPI S1) に切り替えてお使いください。

■ スタンバイモードを高度から標準に変更する

- 1 BIOS セットアップで、スタンバイモードを標準 (ACPI S1) に設定します (→ 「BIOS」 - 「操作方法」)。

「Power Management Setup」 - 「ACPI Suspend Type」 : S1(POS)

POINT

- ▶ 上記の操作を行うと、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で、再設定してください (→ P.31)。

■ スタンバイモードを標準から高度に変更する

標準から高度に変更するには、BIOS 設定を元に戻してください。

- 1 BIOS セットアップで、次の設定を変更します (→ 「BIOS」 - 「操作方法」)。

「Power Management Setup」 - 「ACPI Suspend Type」 : S3(STR)

- 2 変更後、リカバリを実行します (→ 『取扱説明書』)。

POINT

- ▶ リカバリ後は、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で、再設定してください。 (→ P.31)

5 その他

Power MANagement for Windows

Power MANagement for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF (自動シャットダウン)」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」、「イベント連携」の機能を使用できます。PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください(→ P.44)。

■ PMAN の機能

本ワークステーションで使用できる機能は、以下のとおりです。

● スケジュール機能

カレンダスケジュールにより、ワークステーション電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wake on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入／切断 (自動シャットダウン含む) を行うことができます。グループ指定 (運用単位) により複数のワークステーションを一括して電源投入／切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows (コンソール)」(別売) の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時 (シャットダウン時) のイベントごとにユーザープロセス (プログラム、コマンドなど) を指定できます。イベント発生とアプリケーションを連携させることができます。たとえば、通常停止 (電源切断) のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなアプリケーションの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- ▶ 本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。
- ▶ 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源の管理」－「詳細タブ」－「電源ボタン」の設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にアプリケーションの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。
- ▶ DHCP について (リモート電源制御機能使用時のみ)
本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。
- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

Memo

第2章

ソフトウェア

ソフトウェアのインストールについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧	38
2 ドライバ	47

1 ソフトウェア一覧

POINT

- 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。
- 選択したカスタムメイドオプションによっては、この他にソフトウェアが添付されることもあります。
- 添付されているソフトウェアは「ドライバーズ CD」、「リカバリ CD-ROM」などに格納されています。各ソフトウェアの紹介を参照してインストールしてください。

◎：プレインストール（添付あり） ○：プレインストール（添付なし） △：添付のみ －：添付なし

名称	Windows XP	Windows 2000
Microsoft Windows XP Professional (SP1a) (→ P.39)	◎	－
Microsoft Windows 2000 Professional (SP3) (→ P.39)	－	◎
Internet Explorer 6.0 SP1 (→ P.40)	○	○
Microsoft IME スタンダード 2002 (→ P.40)	○	－
Microsoft IME2000 (→ P.40)	－	○
DirectX8.1 (→ P.41)	○	－
DirectX8.1b (→ P.41)	－	○
viewdocs (→ P.41)	◎	◎
Acrobat Reader (→ P.41)	◎	◎
3 モードフロッピーディスク ドライバ (→ P.42)	◎	◎
RecordNow ^{注1} (→ P.42) / DLA ^{注1注2} (→ P.42)	◎	◎
AntiVirus (→ P.43)	△	△
Power MANagement for Windows (→ P.44)	△	△
FM-Menu (→ P.44)	△	△
@nifty でインターネット (→ P.45)	△	△
ハードディスクデータ消去 (→ P.45)	△	△

プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください。

注1：カスタムメイドオプションで内蔵 CD-R/RW ドライブユニットを選択している場合

注2：Web ページよりダウンロードできます。(→ P.42)

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ▶ Windows XP では Windows 起動中に「ドライバーズ CD」、「リカバリ CD-ROM」などをセットすると、「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されます。「キャンセル」をクリックしてください。

■ Microsoft Windows XP Professional (SP1a)

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプか、添付されている『Microsoft Windows XP Professional ファーストステップガイド』をご覧ください。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP Professional

□ SP1a のインストール

SP1a には、Windows XP に対する新しい修正が含まれています。

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
c:\\$sp\xp\sp1a.exe
「Windows XP Service Pack1 セットアップ ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「追加使用許諾契約書」を読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

この後は、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows XP のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Microsoft Windows 2000 Professional (SP3)

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプか、添付されている『Microsoft Windows 2000 Professional クイックスタートガイド』をご覧ください。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000

□ Service Pack3 のインストール方法

SP3 には、Windows 2000 に対する新しい修正、以前にリリースされた Service Pack の修正が含まれています。

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

c:\\$support\\$sp\\$w2ksp3.exe

3 「次へ」をクリックします。

4 「使用許諾」を読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

この後は、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows 2000 のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Internet Explorer 6.0 SP1

□ 概要

WWW ブラウザです。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

■ Microsoft IME スタンダード 2002

□ 概要

日本語入力変換ユーティリティです。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP

■ Microsoft IME2000

□ 概要

日本語入力変換ユーティリティです。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000

■ DirectX8.1

□ 概要

マルチメディアの機能を拡張します。DirectX8.1 に対応したソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現します。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP

■ DirectX8.1b

□ 概要

マルチメディアの機能を拡張します。DirectX8.1b に対応したソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現します。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000

■ viewdocs

□ 概要

富士通パソコン情報サイトFMWORLD.NETのビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) に用意されているCELSIUSマニュアルを、本ワークステーションに保存し、閲覧、印刷できます。またサーバなどに保存して、マニュアルデータを共有することもできます。

□ 対象機種

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に、管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタートボタン」→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:\\$app\\$viewdocs\\$setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Acrobat Reader

□ 概要

PDF (Portable Document Format) 書類を表示、閲覧、印刷できます。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ セットアップ中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:\\$app\\$acrobat\\$acoreader51_jpn_full.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■3 モードフロッピーディスクドライバ

□概要

次の DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応(1.44MB、1.23MB、1.2MB、720KB、640KB) のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。

□対象機種／OS

全機種／全 OS

■ RecordNow

□概要

データ CD や音楽 CD を作成するためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーション内のヘルプをご覧ください。

□対象機種／OS

カスタムメイドオプションで、内蔵 CD-R/RW ドライブユニットが搭載されている機種／全 OS

□インストール方法

インストール方法については、添付の「RecordNow」CD-ROM 内の PDF マニュアルをご覧ください。

■ DLA

□概要

データ CD の作成の際、パケットライト機能が使用できるアプリケーションです。

□ 対象機種

カスタムメイドオプションで CD-R/RW ドライブユニットが搭載されている機種／全 OS

□ インストール方法

POINT

- ▶ 本ワークステーションをインターネットに接続しておいてください。
- ▶ RecordNow をインストールしていない場合は、DLA のインストールの前にインストールしてください。(→ P.42)
- ▶ RecordNow Wizard のヘルプからは、サポートの Web ページを表示できません。

1 RecordNow を起動します。

2 「ヘルプ」メニュー→「Web のテクニカルサポート」の順にクリックします。
サポートの Web ページが表示されます。

3 Web ページ内の「ダウンロード」をクリックします。

この後は、メッセージに従って操作します。

■ AntiVirus

□ 概要

コンピュータウイルスを検出・駆除します(→「トラブルシューティング」-「コンピュータウイルス対策」(→ P.51))。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ] :¥app¥nav¥setup. exe

インストールが始まります。メッセージに従って操作してください。

Windows 2000 では次の POINT を参照してください。

POINT

- ▶ 「サービスアカウント情報」ウィンドウでは、管理者権限を持った「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

■ Power Management for Windows

□ 概要

本ワークステーションの電源を制御できます（→ P.35）。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめ IP アドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いの LAN ドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。

- 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ] : app\pman\pmansub\setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ FM-Menu

□ 概要

ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

● Windows XP の場合

[CD-ROM ドライブ] : app\fmmenu\xp\setup.exe

● Windows 2000 の場合

[CD-ROM ドライブ] : app\fmmenu\2k\setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ @nifty でインターネット

□ 概要

インターネットのプロバイダである @nifty に入会できます。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]:¥app¥nifty¥setup. exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ ハードディスクデータ消去

□ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」—「ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」をご覧ください。

□ 留意事項

- 本ツールでは、本ワークステーションに内蔵されている基本ハードディスクのみを対象としています。このため、増設したハードディスクを消去することはできません。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- 実行中に電源を切らないでください。ハードディスクが壊れる可能性があります。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- ご購入時に取り付けられている内蔵ハードディスクのみ消去できます。
- 次のものが必要になります。
 - ・リカバリ CD-ROM1

□ 手順

1 「リカバリ CD-ROM1」をセットします。

2 本ワークステーションを再起動します。

- 3 「CELSIUS」ロゴの下に文字が表示されている間に、【F12】キーを押します。メニューが表示されます。表示されない場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。
- 4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。「リカバリメニュー」画面が表示されます。
- 5 「ハードディスクデータ消去」を選択し、【Enter】キーを押します。ハードディスクデータ消去に関する注意事項が表示されます。

この後は、メッセージに従って、操作を続けてください。
「データ消去が完了しました。」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM」を取り出し、本ワークステーションの電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切ります。

アンインストール方法

■ 留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
「この DLL は複数のアプリケーションで使用されている可能性があります。削除を行いますか？」
この DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
- アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する
- 「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

2 ドライバ

◀ 重要

- 添付の「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。

リカバリ後は、グラフィックスドライバのみインストールする必要があります。その他のドライバを再インストールする必要はありません。なんらかの理由でドライバの再インストールが必要な場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。

ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。

インストール手順は、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧ください。

◀ 重要

- フォルダ内の「install.txt」または、「readme.txt」の動作環境に「Microsoft(R) Windows(R) XP Profesional」、「Microsoft(R) Windows(R) 2000 Profesional (Service Pack2)」と記載されておりますが、それぞれ Windows XP SP1a、Windows 2000 SP3 でもお使いになれます。
- すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。ただし、ドライバーズ CD の Update フォルダ内に最新ドライバが格納されている場合がありますので、必要に応じてインストールしてください。
- FireGL 8800 は 256 色の発色数は設定できないため、256 色の発色数を必要とするアプリケーション（Windows Media Player での視覚エフェクトの全画面表示など）はお使いになられません。
- Quadro4 ディスプレイドライバをアンインストールした場合、デスクトップ上にフォルダが作成される場合があります。この場合は作成されたフォルダを削除してください。
- 「Intel Chipset Software Installation Utility」をインストールした場合、インストール完了時に再起動を要求するメッセージが表示されない場合があります。その場合、次の手順で再起動してください。
 - 「Install Shield(R) ウィザードが完了しました」ウインドウで「完了」をクリックします。
 - 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックし、「再起動」をクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して、[OK] をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。
- 「Intel Ultra ATA Companion」（「スタート」ボタン→「Intel Ultra ATA Storage Driver」→「Companion」）から搭載しているハードディスクの容量を確認する場合、「ディスクサイズ」で表示される GB 単位の表示が正しく表示されません。バイト単位の表示でご確認ください。

Memo

第3章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

1	トラブルに備えて	50
2	トラブル発生時の基本操作	53
3	起動・終了時のトラブル	57
4	OS・アプリケーション関連のトラブル	59
5	ハードウェア関連のトラブル	61
6	リカバリ	72
7	それでも解決できないときは	73

1 トラブルに備えて

ここでは、トラブルを未然に防ぐために注意すべき点や、もしものときに備えて事前に準備すべき点について、説明します。

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止するVCCIの基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するため、次のような点にご注意ください。

■ 本ワークステーションの注意事項

- 本体カバーを外した状態でお使いにならないでください。
- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかりと締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本ワークステーションや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、弊社担当営業員または担当保守員にご連絡ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本ワークステーションに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前には *Readme.txt*などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われる場合があります。必要なデータはフロッピーディスクや MO などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの1つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

■ AntiVirus

本ワークステーションにはウイルスを発見するためのソフトとして、AntiVirus が添付されています。メールに添付されたファイルや入手したフロッピーディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえでお使いください。

AntiVirus はご購入時にはインストールされていません。必要に応じて、「ソフトウェア」→「ソフトウェア一覧」（→ P.38）をご覧になり、インストールしてください。また、AntiVirus の使用方法については、ヘルプをご覧ください。

□ 留意事項

- 「AntiVirus」を起動していると、アプリケーションが正常にインストールされなかつたり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「AntiVirus」を使用不可にしてください。
 - ・ Windows XP では、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus 2003」の順にクリックします。
 - Windows 2000 では、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus 2003」の順にクリックします。
- 「Norton AntiVirus」ウインドウで「オプション」をクリックし、「Auto-Protect を有効にする」のチェックを外して、「OK」をクリックします。
- ・ 「Norton AntiVirus」のアイコンがタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。
- AntiVirus でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。

- 本ワークステーションをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- AntiVirus は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。
スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の AntiVirus をご購入ください。

■ コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

◀ 重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 951 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやアプリケーションのインストールを行う場合は、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア／ソフトウェア要件
使用したい周辺機器やアプリケーションが本ワークステーションのハードウェア構成や OS で使用できるか確認します。
- 取り付け時やインストール時に注意すべき点
特に `readme.txt` や `install.txt` などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。
また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。
- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報
- 問題が解決されたドライバやアプリケーションの修正モジュール
弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ（<http://www.fmworld.net/biz/>）でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

ここでは、トラブル発生時にまず行うべき操作を説明します。

接続や電源スイッチを確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず接続や電源スイッチを確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付け、アプリケーションのインストールを行った直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - アプリケーションをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、readme.txtなどの補足説明書、Web上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→P.52）。発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

■ 前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらずWindowsが起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

□ Windows XP の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「CELSIUS」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
「Windows拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3 「前回正常起動時の構成(正しく動作した最新の設定)」を選択し、【Enter】キーを押します。**

画面の指示に従って操作します。

□ Windows 2000 の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**

- 2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。**
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3 「前回正常起動時の構成」を選択し、【Enter】キーを押します。**

画面の指示に従って操作します。

Safe モード

Windows が起動しない場合、Safe モードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

■ Windows XP の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**

- 2 「CELSIUS」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**

「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。

- 4 「Microsoft Windows XP」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。**

「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。

- 5 「はい」をクリックします。**

必要に応じて、「ソフトウェア」 - 「ドライバ」(→ P.47) をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

■ Windows 2000 の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 5 「OK」をクリックします。
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.47) をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

ハードウェアの競合を確認する

周辺機器を正しく取り付けたにもかかわらず動作しない場合、ハードウェア (IRQ) の競合が起こっていないか確認してください。
確認方法は次のとおりです。

- 1 次の操作を行います。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
 - Windows 2000 の場合
「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 次の操作を行います。
「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 競合しているデバイスを確認します。
競合しているデバイス名にはエクスクラーメーションマーク (!) が表示されています。
または、×印が表示されている場合もあります。
- 4 競合しているデバイスがある場合、IRQ の変更を行ってください。
変更方法については、「スタート」メニューに登録されているヘルプで調べることができます。
また、デバイスに添付されているマニュアルもあわせてご覧ください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本ワークステーションの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルのエラーメッセージ集などで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

3 起動・終了時のトラブル

□ ビープ音が鳴った

電源を入れた後の POST (自己診断) 時に、ビープ音が鳴る場合があります。ビープ音が鳴る原因と対処方法は、『取扱説明書』をご覧ください。

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の POST (自己診断) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『取扱説明書』をご覧ください。

□ 電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。

□ 画面に何も表示されない

- ワークステーション本体の電源は入っていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットに接続されていますか？
 - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

マウスが故障している場合は、弊社担当営業員または担当保守員に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
Windows が強制終了されます。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.64）。

- Windows 2000 の場合

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows のセキュリティ」 ウィンドウが表示されます。
2. 「シャットダウン」 をクリックします。
Windows が強制終了されます。

 **POINT**

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.64）。

もし上記の操作で強制終了できないときは、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れてください。

4 OS・アプリケーション関連のトラブル

□ Windows が起動しなくなった

- アクセス表示ランプは点灯していますか？
本ワークステーションが故障している可能性があります。弊社担当営業員または担当保守員にご相談ください。
- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.53）。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- Safe モードで起動できますか？
いったん Safe モードで起動し（→ P.54）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。
- Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本ワークステーションを再起動してください。

□ プログラムが動かなくなってしまった

- 次の手順でプログラムを終了させてください。

- ・ Windows XP の場合

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
2. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
3. 「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.64）。

- ・ Windows 2000 の場合

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows のセキュリティ」 ウィンドウが表示されます。
2. 「タスクマネージャ」 をクリックします。
「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
4. 「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.64）。

□ Windows の動作が不安定になった

- ログオン後すぐに「コントロールパネル」ウィンドウ「管理ツール」内の「コンポーネントサービス」を起動し、「コンソールルート」－「コンポーネントサービス」－「コンピュータ」を開こうとすると、まれにアプリケーションエラーが起きことがあります。このエラーが起こると、本ワークステーションの動作が不安定になります。この場合は、本ワークステーションを再起動してください。再起動後は問題なくお使いになれます。
なお、「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」はログオン後 10 分ほど経過してから開くようにしてください。
- 古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本ワークステーションおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本ワークステーションに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。
また、本ワークステーションに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。
- お使いの装置によりサポートするOSがことなります。サポートされていないOSはお使いになれません。

□ 省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」（→ P.28）をご覧ください。

□ アプリケーションのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないとときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。
- 市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本ワークステーションにプレインストールされている Acrobat Reader 5.1 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 5.1 をインストールし直してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

BIOS

□管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので弊社担当営業員または担当保守員にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。

メモリ

□メモリサイズが小さく表示される

「システムのプロパティ」ダイアログボックスで表示されるメモリサイズは、搭載メモリサイズより若干少なく表示されます。

内蔵 LAN

□ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか?
ワークステーション本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 のケーブルを使用してください。
- 内蔵 LAN に関して次の項目を確認してください。
 - ・ハードウェアの競合が起こっていませんか？（→ P.55）
 - ・LAN ドライバは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.47）をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、Ping コマンドを使ってネットワークに接続できているか確認してしてください。
- ハブに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・Speed (100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、ワークステーション側の設定と合っていますか？

- Windows 2000 セットアップ時にネットワーク識別ウィザードが自動的に起動されますが、このとき「戻る」をクリックしないでください。再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント(クライアント/サービス/プロトコル)をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

□ ハブユニットの Link ランプが点灯しない、通信できない、通信が異常に遅い

ハブユニットの仕様や設定に合わせてアダプタの設定を変更してください。

「Speed」と「Duplex」、または「Link Speed & Duplex」を「Auto Detect」からハブユニットに合った通信速度に変更してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。
- 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5 次のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
Intel(R) PRO/100 Network Connection

- 6 「Advanced」タブをクリックします。

- ・スピードとデュプレックスの設定

本ワークステーションをハブユニットに接続したとき、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない場合は、以下の設定を変更してください。

Link Speed & Duplex : 「プロパティ」の「Link Speed & Duplex」をクリックし、「値」から通信速度／通信方式を指定します。

100Mbps/Full Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/Half Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。
10Mbps/Full Duplex … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

10Mbps/Half Duplex … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。
Auto Detect … ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

POINT

- ▶ Full Duplex に設定する場合、ハブユニット側も Full Duplex に設定する必要があります。

・ローカルアドレスの設定

ローカルアドレスを使用する場合は、以下の設定を変更してください。

Locally Administered Address : 「プロパティ」の「Locally Administered Address」をクリックし、「値」に「02」で始まる 16 進 12 桁を入力します。

グローバルアドレスに戻したい場合は、「Restore Default」ボタンをクリックします。なお、設定する値については、ネットワーク管理者に確認してください。

7 「OK」をクリックします。

8 すべてのダイアログボックスを閉じます。

□ Wake On LAN 機能

POINT

- ▶ Wake On LAN 機能は、スタンバイ状態や休止状態からの復帰に使用します。LAN 経由の電源 ON/OFF には PMAN (→ P.44) を使用してください。
- ▶ BIOS 設定で「Power Management Setup」 - 「Wake Up by PCI Card」を Enabled (出荷時設定 : Disabled) に設定する必要があります。

ネットワーク環境下で Wake On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

5 以下のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
Intel(R) PRO/100 Network Connection

6 「電源の管理」タブをクリックします。

7 以下の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。

- ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります。
- ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようになります。

Wake On LAN 機能を使用すると、ネットワーク状態を最新の情報を更新するためにコンピュータが定期的にアクティブになることがあります。そのため、不適切なときにコンピュータがアクティブになったりする可能性があります。そこで、省電力モードへの移行については、次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

- 2** 「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」アイコンをダブルクリックします。

「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 3** 「電源設定」タブの「システム スタンバイ」または「システム休止状態」を「20分後」以上に設定します。

POINT

- ▶ 設定値が20分より短いと、ワークステーション本体が省電力モードに移行していても他のコンピュータからの接続確認データを受信して、省電力モードから復帰してしまう場合があります。なるべく20分よりも長い値を設定してください。

ハードディスク

□ ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出でていませんか？
『取扱説明書』をご覧ください。

□ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- 次の手順でハードディスクのチェックを行ってください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. Windows XP では、「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。Windows 2000 では、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックしてCドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動時に、このディスクの検査を実行しますか？」または「次回のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリしてください（→『取扱説明書』）。

□ NTFS 区画のドライブに CHDKSK コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される（Windows 2000）

- 次の手順で CHDKSK コマンドを行ってください。
 1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
 2. プロンプトから次のように入力し、【Enter】キーを押します。

chkdsk /f [NTFS区画のドライブ]

この手順を行った後は、オプションなしの **CHKDSK** コマンドを実行してもエラーメッセージは表示されません。

なお、ハードディスクのチェックは、**CHKDSK** コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

□ その他

● ディスクアドミニストレータがディスクにアクセスできるようにするために、初めてディスクアドミニストレータを起動したとき、ディスクに署名を書き込む必要があります。次の手順で署名を書き込んでください。

1. ディスクアドミニストレータを起動します。
「ディスクアドミニストレータ」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「OK」をクリックします。
「確認」ウィンドウが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。
ディスクに署名が書き込まれ、ディスクアドミニストレータでディスクにアクセスできるようになります。

CD-ROM

□ ディスクからデータの読み出しができない

● ディスクが正しくセットされていますか？

ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。

● ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？

汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。

● ディスクが傷ついていたり、極端に反っていたりしませんか？

ディスクを交換してください。

● 規格外のディスクを使用していませんか？

規格に合ったディスクをお使いください。

□ ディスクが取り出せない

● ワークステーション本体は動作状態になっていますか？

本ワークステーションの内蔵ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウのディスクアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、

内蔵ドライブユニット前面のディスク取り出しボタン横にある穴を、曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）でつづいてください。

フロッピーディスク

□ フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか?
ディスクのシャッタのある側から、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ディスクはフォーマットしてありますか?
ディスクをフォーマットしてください。
- BIOS セットアップの項目を正しく設定していますか? (→「BIOS」 - 「メニュー詳細」)
- ディスクが書き込み禁止になっていませんか?
ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。
- 別のディスクは使用できますか?
別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。
- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか?
クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください (→「ハードウェア」 - 「フロッピーディスクドライブのお手入れ」)。

□ Windows XP でフロッピーディスクを 720KB でフォーマットできない

- Windows XP では、フロッピーディスクを 1.44MB 以外の容量にフォーマットできません。

SCSI カード

□ SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows から認識できない

- SCSI カードのドライバはインストールされていますか? 次の手順に従って確認してください。
 1. Windows XP では、「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
Windows 2000 では、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
 3. 「デバイスマネージャ」をクリックし、SCSI コントローラが登録されているか確認します。
登録されていない場合、「ハードウェア」タブの「ハードウェアの追加ウィザード」または「ハードウェアウィザード」をクリックし、SCSI カードの検出とドライバのインストールを行ってください。
- SCSI 装置の電源は、ワークステーション本体の電源を入れる前に入れましたか? ワークステーション本体の電源より先に SCSI 装置の電源が入っていないと、正しく認識されません。
- SCSI 装置の機器 ID は正しく設定されていますか? 複数の SCSI 装置に同じ機器 ID を設定すると、正しく認識されません。

ディスプレイ

□ 画面に何も表示されない

- 省電力モードが設定されていますか？

マウスを動かすか、どれかキーを押してください。

ワークステーション本体の電源ランプがオレンジ色に点灯している場合、ACPI モードの高度 (ACPI S3) / 標準 (ACPI S1) に移行している可能性があります。ワークステーション本体の電源スイッチを押してください。電源スイッチを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源スイッチを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。

POINT

▶ 時刻指定、LAN、モデム着信 (RingIndicator 信号)、PCI 拡張カード (PME 信号) によって、スタンバイ (ACPI モード高度と標準) から復帰した場合、システムはレジュームしますが、画面が表示されません。マウスかキーボードの入力によって画面が表示されます。電源を切る前に、マウスを動かすかどれかキーを押して、ワークステーションの状態を確認してください。

- 「起動・終了時のトラブル」 (→ P.57) もご覧ください。

□ ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？

ディスプレイの角度を調節してください。

- 明るさなどを調節しましたか？

明るさをブライトネスボリュームで調節してください。

□ 表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次の操作を行ってください。

- ・「ソフトウェア」 - 「ドライバ」 (→ P.47) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
- ・Windows が起動しないときは、Safe モードで起動してからインストールを行ってください (→ P.54)。

- アプリケーションを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウの再表示を行ってください。

1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
2. タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをクリックします。

POINT

▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。

- ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
- ・ DirectX を使用した一部のアプリケーション使用時

- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出することがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。

- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系アプリケーションなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。設定を調整して使用してください。なお、正常に表示されない場合は、色数を 256 色または 16,777,216 色に設定してください。

- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください（→ P.50）。

□ 画面の両サイドが欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズの調整を行ってください。

□ リカバリまたは再インストール後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

- 次の手順で設定し直してください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「ドライバーズ CD」をセットします。

POINT

- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。
- 3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 4. 「設定」タブの「詳細設定」をクリックします。
- 5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
- 6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」 ウィンドウが表示されます。
- 7. 「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 8. 「リムーバブルメディア（フロッピー、CD-ROM など）を検索」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
- 9. 「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「.. インストールしようとしているソフトウェアは、Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません。」と表示されたら、「続行」をクリックしてください。

「ハードウェアの更新ウィザードの完了」 ウィンドウが表示されます。

10. 「完了」をクリックします。
 11. すべてのウィンドウを閉じます。
- ・ Windows 2000 の場合
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「ドライバーズ CD」をセットします。

3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「設定」タブの「詳細」をクリックします。
5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ウィンドウが表示されます。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
9. 「CD-ROM ドライブ」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
10. 「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されたら、「はい」をクリックしてください。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。
11. 「完了」をクリックします。
 12. すべてのウィンドウを閉じます。

□ その他

- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。特に3Dグラフィックスを使用する場合は、大量のメモリを消費するため、性能が低下することがあります。

サウンド

□ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源スイッチは入っていますか？
 - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
- OSの「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。
- ハードウェアの競合が起こっていますか？（→ P.55）
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ドライバーズCD」内の「Indexcd.htm」でお使いのサウンドドライバのフォルダ名を確認し、フォルダ内の「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧になり、再インストールしてください。

キーボード

□ キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？

□ 押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？

キーボード上のインジケータで、【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていないか確認してください。

- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？

次の手順で確認してください。

- Windows XP の場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
3. 「キーボード」アイコンをクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

- Windows 2000 の場合

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「キーボード」アイコンをダブルクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
3. 次のウィンドウで、正しい日本語IMEが設定されているか確認します。
「入力ロケール」タブの「インストールされている入力ロケール」

マウス

□ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
 - ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？
- マウス内部をクリーニングしてください。

□ マウスが使えないため、Windowsを終了できない

- キーボードを使用してWindowsを終了してください(→P.57)。
- マウスの中ボタンが動作しない

標準添付されている3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応アプリケーションを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.61）

その他

□ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ（<http://www.fmworld.net/biz/>）で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 リカバリ

ここでは、リカバリに関する補足情報を説明します。リカバリ方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

リカバリを実行する前に

■ 前回正常起動時の構成に戻す

前回正常起動時の構成に戻せるか確認してください (→ P.53)。

■ Safe モード

Safe モードで起動できるか確認してください (→ P.54)。

■ ドライバのインストール

なんらかの理由で、ドライバが正しくインストールされなかつたり、正常に動作しなかつたりした場合は、「ソフトウェア」 - 「ドライバ」 (→ P.47) をご覧になり、ドライバを再インストールしてください。

リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリを行っても状態が改善されない場合は、弊社担当営業員または担当保守員に連絡してください。

7 それでも解決できないときは

どうしても解決できない場合は、『取扱説明書』で各種窓口の連絡先をご確認のうえ、お問い合わせください。

ここでは、『取扱説明書』に記載されていない、ソフトウェア関連の連絡先を記載しています。

ソフトウェアのお問い合わせ一覧

本ワークステーションに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2003年6月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、弊社担当営業員または保守担当員へお問い合わせください。

● @nifty でインターネット

・ 入会案内

ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター

9:00～21:00 (注：ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。)

電話：0120-816-042 (携帯・PHS・海外の場合：03-5753-2374)

E-mail : feedback@nifty.com

URL : <http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm>

・ テクニカルサポート／@nifty サービス内容案内

ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター

9:00～21:00 (注：ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。)

電話：0120-818-275 (携帯・PHS・海外の場合：03-5753-2373)

E-mail : feedback@nifty.com

URL : <http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm>

● Norton AntiVirus 2003

・ 株式会社シマンテック

シマンテックテクニカルサポートセンター

ただし上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。

ホームページ : <http://shop.symantec.co.jp/oem/fujitsu/2002/>

サポートサイト : <http://www.symantec.com/region/jp/support/index.html>

電話 : 03-3476-1118

10:00～12:00、13:00～17:00 (土・日・祝日年末年始を除く)

FAX : 03-3477-1118

● Adobe Acrobat Reader 5.1

ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

● アプリケーション (カスタムメイドオプション)

各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

● その他 CELSIUS の技術的なご質問・ご相談

弊社担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。
なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

索引

記号

- @nifty でインターネット 38, 45
- 3 モードフロッピーディスク
ドライバ 38, 42

A

- ACPI 28
- Acrobat Reader 38, 41
- AntiVirus 38, 43, 51

D

- DirectX8.1 38, 41
- DirectX8.1b 38, 41
- DLA 38, 42
- DMA の設定 22

F

- Fire GL 8800 18
- FM-Menu 38, 44

I

- Internet Explorer 6.0 SP1 38, 40

L

- LAN 21

M

- Microsoft IME2000 38, 40
- Microsoft IME スタンダード 2002 38, 40
- Millennium G450 14
- Millennium G450-PCI 14

N

- NTFS 26

P

- Power MANagement for
Windows 38, 44

R

- RecordNow 38, 42

S

- Safe モード 54

V

- viewdocs 38, 41

W

- Wake On LAN 機能 63
- Windows 2000 38, 39
 - Service Pack3 40
- Windows XP Professional 38
 - Service Pack1a 39

あ行

- 色数 10

か行

- 解像度 10
- 仮想メモリ 24
- 休止状態 28
 - の留意事項 28
- 競合 55

さ行

- 省電力 28
- スタンバイ 28
 - の留意事項 28

た行

- ドライバ 47
- ドライバーズ CD 47
- ドライブ 22

は行

- ハードディスクデータ消去 38, 45
- ファイルシステム 26
- ページングファイル 24

ま行

マルチディスプレイ機能.....11

CELSIUS 330

ソフトウェアガイド
B5FH-8871-01-00

発行日 2003年6月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。